

さい  
の  
河原

みつむら  
けいすけ

# 賽さいの河原

## 【登場人物】

船頭 (男)  
腕切り男 (男)  
飛び降り男 (男)

みつむら けいすけ

三途の川のこちら岸。川のせせらぎが聞こえる。  
船着き場の岩に腰掛ける船頭。携帯ゲーム機を持ち、ゲームに興じている。  
腕切り男と飛び降り男がやってくる。

腕切り すみません。  
船頭 …。  
飛び降り すみません。  
船頭 あー。もう、話しかけないですよ。また負けちゃったじゃん。  
飛び降り すみません。  
船頭 得意？  
腕切り え？  
船頭 ゲーム。  
腕切り まあ。  
船頭 ボスが全然倒せなくてさ。(ゲーム機を渡す)  
腕切り え、え？  
船頭 まず、リトライ押して。  
腕切り リトライ…あ、いや、こういうのはちよつと。  
船頭 何？  
腕切り 戦う系はちよつと。  
船頭 何で？  
腕切り 僕、強くないんで。  
船頭 んなことないよ。てか、始まってんじゃん。早く倒して。

腕切り え、これ、どう操作するんですか。

船頭 ○で攻撃。あ、火の玉きてる。跳んで。

飛降り あの…。

腕切り え？ と、跳ぶってどうやって。あ、あー。

船頭 下手だなあ。

腕切り そんなこと言われても。

船頭 もう一回やってみ？

腕切り 嫌です。(ゲーム機を突っ返す)

船頭 諦めんなよ。

飛降り あの。

船頭 何？

飛降り 向こう岸に渡りたいんですけど。

船頭 あー、はいはい。

船頭、船端に腰掛け、再びゲームに興じる。

飛降り あの。

船頭 何。

飛降り 向こう岸に。

船頭 どうして？

飛降り え？

腕切り どうしてって…。

飛降り 死んだら向こうへ渡るもんですよね？

船頭 そうだね。

腕切り あなたが連れて行ってくれるんじゃないんですか？

船頭 職務上はね。

飛降り じゃあお願いします。

船頭 嫌だ。

腕切り は？

船頭 嫌なの。

腕切り 嫌だって、あなたの仕事でしょ？

船頭 だから、その仕事が嫌になったの。

飛降り ありますよね、そういう時。

腕切り 共感してどうするんですか。

船頭 あー、働きたくない。

腕切り ちゃんとしてくださいって…。

飛降り それ、面白いんですか？

船頭 あ、ボス倒せる？

飛降り 善処します。

腕切り ちよつと。あなた、どっちの味方なんですか。

飛降り ああ、すいません。

腕切り あの、どうにかやる気を出してもらえませんか？

船頭 んー…。

飛降り そうだ、渡し賃。

腕切り 渡し賃？

飛び降り男、ポケットから紙切れを取り出す。  
その様子を見て、自らのポケットを探る腕切り男。

飛降り これ、お願いします。

船頭 また六文銭でしょ。

腕切り ろくもんせん？

船頭 君は？

腕切り それが、探してるんですけど、何も見つからなくて。

船頭 何、葬式前？ 君、どういう死に方したの？

腕切り 風呂場で手首をちよつと。

船頭 あー、やめて。そういう生々しいのダメ。

腕切り 自分で聞いたんじゃないですか。

飛降り とにかくこれで、渡してもらえますか？

船頭 嫌だ。

腕切り はあ？

船頭 君は言える立場じゃないよね？

腕切り あ、はい。

船頭 そもそもさ、六文って安すぎだと思わない？

腕切り 六文って、今で言う何円なんですか？

船頭 そんなの知らん。

腕切り …。

船頭 とにかく漕ぎたくない。

腕切り そんな…。

船頭 だって何百年も昇給なしって、やる気も出なくなるでしょ。

飛降り 昇給なしなんですか？

船頭 おまけに賞与なし、休みなし、嫁もなし。

腕切り 嫁は自分の問題でしょう。

船頭 うるさいなあ。

飛降り 転職するべきじゃないですか？

船頭 やっぱそうかな？

飛降り そうですよ。

船頭 世の中の物価は上がるのに未だに六文ってのもなあ。

飛降り やりきれませんね。

船頭 ほんとにそう。

飛降り そういうのって労働基準監督署に…あるんですか？

船頭 何が？

飛降り 労働基準…。

船頭 あー、似たようなのなら。

飛降り 言った方がいいですよ。

船頭 でも、ある程度の証拠がなきゃ相手にしてくれないでしょ。

飛降り タイムカードとかないんですか？

船頭 あるよ。

飛降り じゃあそれで。

船頭 あるんだけど、定時に押して、そのまま残業がザラで。

飛降り それは典型的な…。

船頭 まさにね。

腕切り ちよつと。だから、あなた、どっちの味方なんですか。

飛降り あ、すいません。でも。

腕切り 僕ら向こうへ行けなかったらどうなると思ってるんですか。

飛降り え、どうなるんですか？

腕切り それは…どうなるんですか？

船頭 幽霊として彷徨うんじゃないの？

腕切り ほら。幽霊ですよ？ まずいでしよう。

飛降り どうまづいんです？

腕切り これからずつと「うらめしやく」って言い続けなきゃいけないんですよ？

船頭 それもまたステレオタイプな。

腕切り だって幽霊ですもん。

飛降り 好きな言葉言っちゃダメなんですか？

腕切り 好きな言葉というと？

飛降り 「ラーメン」とか。「チャーシューメン」とか。「ニユーメン」とか。

腕切り 麺類好きなんですか？

飛降り 割と。

船頭 夜になぜかラーメン食べたくなるよね。

飛降り 分かります。あれ、どうしてなんですかね？

船頭 なぜかねえ。酒飲むと特にね。

飛降り そうです、そうです。

腕切り ちよつと。意気投合しないでくださいよ。

飛降り すいません。

腕切り そもそも麺類を羅列しても、幽霊感ないじゃないですか。

飛降り 幽霊感？

腕切り 何か、こう、幽霊っぽい雰囲気のことですよ。

飛降り 幽霊っぽい雰囲気ですか。

腕切り 例えば「殺してやる」とか。

飛降り 物騒ですね。

腕切り 幽霊ってのは物騒な生き物なんです。

船頭 生き物ではないけどね。

飛降り 友好的な幽霊じゃダメですかね？

腕切り そんなの、全然幽霊感ないじゃないですか。

飛降り 幽霊って難しいですね。

腕切り それっぽいフリだけやればいいんですよ。

飛降り フリ、ですか。

船頭 フリで誤魔化していると、いいことないよ。

腕切り そんなことないですよ。

船頭 ホントに？

腕切り え？

船頭 で、もういいの？

腕切り あ、ダメです。舟に乗せてください。

船頭 いいじゃん、麺類つぶやきながら彷徨うのも乙よ？

腕切り 冗談じゃないですよ。

船頭 何でそんなに渡りたいの？ 適当でいいじゃん。

腕切り 早く死にたいんです。

船頭 あなたも？

飛降り 勿論です。

船頭 ー。

飛降り でも、ここまで来たら、半分死んだようなもんですよね？

船頭 まあ、そうだね。

飛降り 彷徨うのもアリかもしれませんがね。

腕切り 何、中途半端なこと言ってるんですか。

飛降り ダメですか？

腕切り 向こうに渡って初めて意味があるんですよ。

船頭 そんな良いところじゃないよ？

腕切り それでも行きたいんです。

船頭 頑なだなあ。

腕切り とりあえず向こう岸に渡して下さい。悩むのはその後で。

船頭 舟じゃなくてもいいんじゃない？

腕切り え？

飛降り 他に渡る方法があるんですか？

船頭 泳げばいいじゃん。

腕切り 泳ぎは苦手で。

船頭 大丈夫だって。結構浅いし。

腕切り でも…。

船頭 何、その程度の気持ちなの？

腕切り いえ、死にたい気持ちなら誰にも負けません。

船頭 よく言った。あんたは？

飛降り 私だって負けませんよ。

船頭 どれくらい？

飛降り え？

船頭 どれくらい死にたいの？

飛降り これくらいです。(両腕を広げる)

腕切り 僕はこれくらいです。(もつと両腕を広げる)

船頭 その程度？

腕切り え…。

船頭 距離で表すとどれくらいなの？

腕切り そうですね…ここから向こう岸に届くくらいです。

船頭 よし、じゃあ、渡ってみよう。

腕切り …。

船頭 何？

腕切り いいですよ？ どうせ浅い川ですから。

飛降り でもあの辺、深くないですか？

腕切り え、どこですか？

飛降り あそこ。色が濃くなってる。

船頭 まあ、たまに深いところもあるかもね。

腕切り …。

船頭 怖気づいた？

腕切り 困ります。

船頭 どうして。

腕切り だから、泳げないんです。流されたらどうするんですか。  
船頭 そのまま海まで行ったらいいじゃない。  
飛降り ここにも海があるんですか？  
船頭 知らん。  
腕切り あったとしても、行き着く前に溺れ死んじやいますよ。  
船頭 一生の内に二回も死ぬるなんて、なかなかないよ？  
腕切り 冗談じゃないですよ。  
船頭 死ぬ気になれば、何でもできるって。  
腕切り もう死んでるんですって。  
船頭 ああ、そうだった。  
飛降り じゃあ、死ぬ気になって逝ってみましょうか。  
腕切り ちよ、ちよっと待ってください。  
飛降り はい？  
腕切り 置いていかないでくださいよ。  
飛降り そう言われても。  
腕切り あなたが逝ったら、残った僕はどうなるんですか。  
飛降り 幽霊になるんじゃないんですか？  
腕切り 嫌ですよ。そんなの。  
船頭 わがままだなあ。  
腕切り そもそも、あなたが漕いでくれれば丸く収まるんですよ。  
飛降り 自分で漕ぐってというのはどうですか？  
腕切り え？  
飛降り 私らが漕ぐんです。手漕ぎボートくらいできるでしょう。

腕切り 確かに。いいですか？ お借りしても？  
船頭 どうぞー。  
腕切り やった。  
飛降り これでやっと死ねますね。  
船頭 そういえば昔、勝手に自分で漕いで、転覆した人がいたな。  
腕切り え？  
船頭 流れが急に変わるところがあるからね。  
飛降り その人、どうなったんですか？  
船頭 幽霊として、その辺を彷徨ってるんじゃない？  
腕切り 冗談じゃない。  
船頭 んなこと言ったって。  
腕切り あの、どうか漕いでいただけませんか？  
船頭 安月給じゃあねえ。  
腕切り そこを何とか。お願いします。  
船頭 だってさ、やる気出ないんだもん。  
飛降り やりがいはないんですか？  
船頭 やりがい？  
飛降り 今の仕事に。  
船頭 ああ。一回頑張ってはみたんだけど。  
飛降り というと？  
船頭 おれさ、小型船舶の免許、持ってるんだよ。  
腕切り 凄くないですか。  
船頭 いやいや。そもそも、こんな時代に手で漕ぐって、ねえ。

腕切り 確かに。

船頭 この仕事に就いてからね。自分で参考書買って勉強して、取ったわけよ。

飛降り それで？

船頭 でも、向こうの人が言うわけ。

腕切り 向こうって？

飛降り あの世の、お偉いさんですか。

船頭 そう。「手漕ぎは昔からの伝統だ」って。

飛降り お堅いんですね。

船頭 ほんとに。「風情がない」とか言ってさ。

飛降り 風情はないですね。

腕切り 確かに、モーターボートで連れて行かれるっていうのも。

飛降り 渡る最中に思い出を振り返りたい人もいるでしょうしね。

船頭 自殺者の君らでも振り返りたいと思うの？

腕切り …いえ。

船頭 まあそんな訳だから、キャリアアップもできないし。

飛降り 毎日同じことの繰り返し、なんですね。

船頭 そう。それに最近、仕事ハードなんだよ。

飛降り そうなんですか？

船頭 今の時期はちょうど気候的に減る時期なんだけどね。

腕切り 時期というと？

船頭 春先とか、憂鬱になりやすいでしょ？

腕切り 言われてみれば…。

船頭 だから、自殺者が増える。

飛降り なるほど。

船頭 そもそも日本人死にすぎなんだよ。

二人 …。

船頭 一日に何往復もして。もう気が滅入る。

飛降り それは、仕事が嫌にもなりますね。

船頭 でしょ？

腕切り ないんですか？

船頭 何が？

腕切り お客さんに「ありがとう」って言ってもらえたとか。そういうのでやりがい感じたりとか…。

船頭 ないな。

腕切り …そうですか。

船頭 皆死んだような顔して当たり前のように乗ってくるからね。

飛降り 実際、死んでますしね。

船頭 君、生前はまだ学生でしょ？

腕切り はい。

船頭 バス、使ってた？

腕切り はい。

船頭 降りる時、運転手に「ありがとう」って言ってた？

腕切り 言ってみましたよ。

船頭 食事前、「いただきます」って言ってた？

腕切り 最近、言ってなかったかもしれない。



船頭 でき、実際、本当に感謝してる？

腕切り 本当っていうと？

船頭 「ありがとう」って言えばいい、になってないかってこと。

飛降り おざなりな「ありがとう」ですか。

船頭 君が着てる服も、身の周りにある物も、食べ物も、必ず誰

かが汗水流して、必死に作って、そういうモンの上に生活が成り

立ってる訳でしょう。そういうの、意識したことある？

腕切り いや…。

船頭 所詮、そういう背景の一部なんだよ、おれらも。

飛降り 普通にあつて当たり前になつてますもんね。

船頭 そう。それで何かミスがあつた時だけ執拗に責められる。

飛降り 普段は気にもしないくせに。

船頭 何かあればすぐ謝罪会見で。

飛降り あれも、見飽きましたね。

船頭 そう考えると虚しいじゃん。何の為にやってるんだか。

飛降り 社会の一員である前に一人の人間でもありますもんね。

腕切り 逆じゃないですか？

船頭 逆？

腕切り そういう人たちのお陰で僕ら、生きていられたんでしょ？

飛降り ええ。

腕切り 人知れず影で人を支えているなんてカッコイイじゃないで

すか。

船頭 カッコイイ？

腕切り (うなづく) 気づきもしませんでした、今まで。

飛降り 何にですか？

腕切り 社会との、そういう繋がりの中で生きてきたってことにな

す。ふと意識したときに、きつと皆感謝してますよ。あなたに。

間。

腕切り 違いますか？

飛降り いいえ。

船頭 自分じゃ分かんないね。

腕切り 僕はそう思いますけど。

船頭 何にせよ、君は舟に乗せない。この人はいいけど。

飛降り え？

腕切り 何ですか、その嫌がらせ。おかしいでしょ。

船頭 さつきから聞こえてるでしょ。

腕切り 何がですか？

船頭 声。

腕切り 声？

船頭 耳、すませてみなよ。

間。

腕切り 聞こえません。

船頭 嘘つけ。  
腕切り 何も聞こえません。  
船頭 まだこっちで待ってる人、いるんじゃないの？  
腕切り そんな人いません。  
飛降り そういえば君、まだ葬式前だって…。  
腕切り みたいですね。  
船頭 病院で生死の境を彷徨ってる。聞こえるでしょ。声。  
飛降り 親御さん？  
腕切り そんなの、いないようなものです。  
飛降り いないようなもの？  
腕切り 世の中クズばかりです。  
飛降り クズって…。  
腕切り 親もクラスメイトも先生も。  
船頭 確かに世の中クズばかり。君もクズだもんなあ。  
腕切り は？  
船頭 だって、聞こえる声を聞こえないフリするんだもん。  
腕切り だから何も…。  
船頭 そういうの、君が一番嫌いなやつでしょ。  
腕切り え？  
船頭 見て見ぬフリするやつら。目の前で起きてることから目を逸らして、関係ない顔して通り過ぎていくやつら。  
腕切り …。  
船頭 これ、君の友達の声でしょ。

腕切り …友達なんかいません。  
船頭 でも向こうは、そう思ってるみたいだよ。  
腕切り 知りません。  
船頭 どうしてそんなに頑ななの。もっと甘えればいいじゃない。  
腕切り 迷惑かけたくないんです。  
飛降り 迷惑かけ合うのが友達じゃないんですか？  
腕切り え？  
飛降り いや、私はずっとそう思ってたもんですから。  
腕切り でも、僕は…。  
飛降り 君の友達は、無念でしょうね。  
腕切り 遅いんですよ。何もかも。  
飛降り やり残したこと、ないんですか？  
腕切り もうどうだっていいんです。  
飛降り 私は、やり残したことだらけです。もっと美味しいものをお腹いっぱい食べたかった。色んなところへ出掛けて、色んな景色を見たかった。干したての布団に寝て、お日様の匂いを嗅いで寝たかった。子どもが大きくなるまで見ていてやりたかった。  
腕切り じゃあ、どうしてあなたはここにいますか？  
飛降り それは…。  
船頭 皆そう。  
腕切り え…。  
船頭 何したって、最期は皆死んで全部なくなっちゃうんだから。好きにやってみりゃいいじゃん。何がそんなに怖いのか？

腕切り 別に何も。

船頭 逃げるのが間違いとは言わないけど、逃げ方が違うんじゃないの？

腕切り 逃げてなんか…。

船頭 じゃあ何でここにいの？

腕切り …。

船頭 まだここに来るのは早いよ。

腕切り でも。

船頭 仕事増やさないですよ。うんざりしてるんだって。

腕切り ……ありがとうございます。

腕切り男、ハケる。

飛降り 初めてですか？

船頭 何が？

飛降り おざなりじゃない「ありがとうございます」です。

船頭 別に…。

飛降り そうですか。

船頭 で、あんたはいいの？ 子どもの声も聞こえるけど。

飛降り 私は死ななきゃ意味ないんで。

船頭 保険金か。

飛降り 分かるんですか？

船頭 少しは見える。

飛降り 上手く事故に見せられたと思うんですが…。

船頭 どうだろうね。最近の警察は優秀だからね。

飛降り そうなったらそうだったで。

船頭 結果は、神のみぞ知ると感じたね。

飛降り 心残りもありますが、仕方ありません。

船頭 彷徨うかい？ 麺類つぶやきながら。

飛降り 勘弁してください。

船頭 そろそろ火葬。行こうか。

飛降り ええ。

船頭 じゃあ、渡し賃を。

飛降り この世もあの世もお金で回ってるんですね。

船頭 地獄の沙汰も金次第、だからね。

飛降り ここはまだ、地獄じゃないでしょう。

船頭 そうだった。

飛降り じゃあ、お願いします。

飛び降り男、船頭に六文銭の紙を渡す。

船頭、乱れていた服を直す。

船頭 少しはカッコいいかねえ。

飛降り ええ。とても。

船頭 単純だよな。

飛降り 何がです？

船頭 おれ。

飛降り ひとまず今は、それでいいんじゃないですか？

船頭 かねえ。

飛降り はい。

船頭 あ、行く前に一戦いい？

飛降り 好きですね。どうぞ。ゆつくり行きましょう。

船頭 んじゃ、リトライ。

船頭、ゲームに興じる。

それを見守る飛び降り男。

溶暗。

幕。